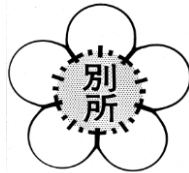


# 別所小の窓



さいたま市立大宮別所小学校  
平成30年12月号 児童数 760名  
TEL 048-667-3633 FAX 048-667-8770

## ステキな笑顔で……

校長 永井 有司

初冬の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

10月のこととなりますが、平成31年度入学予定児童を学校に迎え、就学時健康診断を実施した時のことです。私は、子育て講座の講師や学校医さんの接待をしていました。そこで、一人の学校医さんからこのような嬉しいお話をいただきました。

私 : 「本日はお世話になり、ありがとうございました。」

学校医さん : 「いやあ、今日は感動しましたよ。」

私 : 「えっ、どのような点に感動なされたのですか。」

学校医さん : 「それは、先生方ですよ。笑顔がとてもステキでテキパキと行動してくださいましたよ。」



《大木園芸さんのシクラメン》

最後には、私に「今日はありがとうございました」と深々とお礼をなさってお帰りになりました。お礼を申し上げるのはお世話になった私の方なので面食らってしまいましたが、とても心温まる気持ちになりました。もちろん山あり谷ありの学校ですから、いつも笑顔で仕事をするのは難しいことですが、学校の教職員が笑顔で仕事をしていると聞くことは、校長として本当に嬉しいことです。

笑顔はとてもステキなものですが、1日のうちでどのくらい笑顔でいられるのでしょうか。98歳で亡くなった小説家の宇野千代さんが、書物の中でこのような言葉を残しています。「人の顔つきも習慣である。顔つきが習慣になれば、それはしめたものである。」つい鏡に映る自分の顔を見つめてしまいました。「親から受けた顔だから、こればかりは仕方がない。」と諦めていた(?)私でしたが、親のせいにしてはいけないと反省させられました。そういえば、アメリカの第16代大統領のリンカーンも「40歳を過ぎた人間は、自分の顔に責任をもたなくてはならない。」という有名な言葉を残しています。いつもしかめ面ばかりしていたら、普通にしているでもそういう顔に見えてしまうでしょうし、逆に笑顔でいる時間が長ければ長いほど、それが習慣付いて柔和な顔になっていくことでしょう。「今からでも遅くない」と気持ちを新たにしました。

教職員の笑顔も大切ですが、学校での主役はもちろん子どもたちですから、究極的には子どもたちが笑顔で生活することが一番です。登校時、笑顔で「おはようございます」と挨拶を交わし、下校時も「さようなら」と笑顔で別れられるような一日を提供する責任があると感じております。家庭生活においても、我が子が笑顔で生活できるように努めることは親御さんの大切な務めの一つであると思います。「親として失格だったなあ」と反省しきりの私です。

では、どういう場合に笑顔を保つことができるのでしょうか。私は、希望をもって生活することができれば、自然と笑顔になってくるのだと考えています。本校の教育目標も「大きな夢 力いっぱい～夢と希望をもち 豊かな心でたくましく生きる子の育成～」と謳っています。子どもたちに夢や希望を与えられることのできる学校教育、そして家庭や地域との連携が重要なのだと思わされます。結局、どこから論じても学校教育目標という本校の原点に立ち戻ってくるのですね。改めて学校教育目標の重要さを再確認いたしました。子どもたちの笑顔の構築は、日々の教育活動を教職員が希望に満ち溢れて実践していけるかどうかにかかっているのだという思いを強くいたしました。

11月の講話朝会では、医学博士であり大学教授でもある藤井輝明先生を紹介しました。先生の顔の右半分には、海綿状血管腫のために現在も紫色の大きなコブがあります。子どもの頃のいじめ、大人になってからもバケモノ扱い(ご本人曰く)されながらも活潑なさっている姿には感動すら覚えます。「見た目は悪いですが、笑顔は最高です!」とおっしゃる藤井先生のように、笑顔のステキな子どもたちを育てていきたいと決意を新たにします。